

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日（※当事業年度の中間配当の予定はございません）
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ（ http://www.fujipream.co.jp ）に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 電話 0120-094-777（通話料無料）

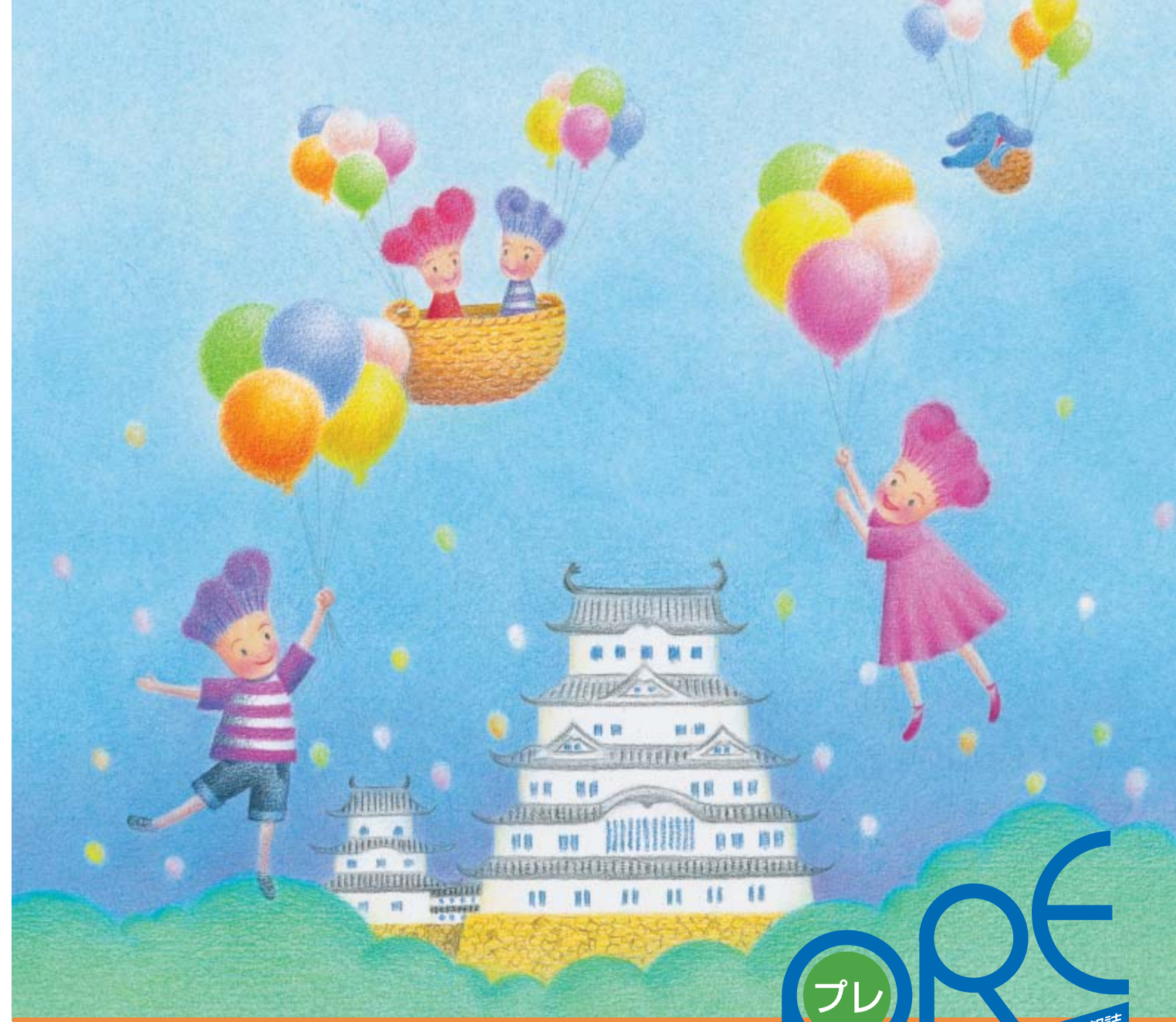
ご注意

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



フジプレミアム株式会社

〒671-2216 兵庫県姫路市飾西38-1 TEL.079-266-6161 FAX.079-266-6738



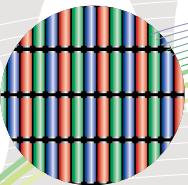
証券コード:4237



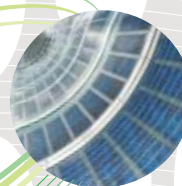
フジプレミアムと社会を結ぶ情報誌

vol.18
2009/6

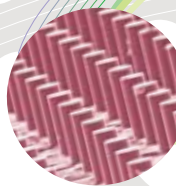
Precision Laminating Technology
精密貼合技術



Photovoltaic Module Fabrication Technology
太陽電池モジュール製造技術



Nanotechnology
ナノテクノロジー



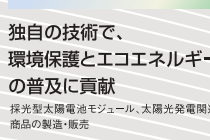
フジプレミアムは、 3つのコア技術で時代を拓きます。

フジプレミアムは、研究開発型企業として3つのコア技術を基本に、時代と顧客のニーズに的確に応え、人々の豊かな暮らしに貢献することを目指しています。日々急速な進歩を遂げるディスプレイデバイス業界、持続可能な社会づくりに寄与するためのエコエネルギー市場、これからの未来を支えるナノテクノロジーの世界において、さらなる技術の向上と、新たな技術の取得に努めています。



最先端テクノロジーで、
ディスプレイデバイス業界
を牽引

PDP用光学フィルター、液晶偏光板フィルム等
光学機能性フィルムに関する製品の製造・販売



独自の技術で、
環境保護とエコエネルギー
の普及に貢献

採光型太陽電池モジュール、太陽光発電関連
商品の製造・販売



時代の基幹技術
「ナノテクノロジー」を、
産学官で共同研究

放射光による超微細加工技術の研究

株主、投資家の皆様へ

株主の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、当社グループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第27期(平成21年3月期)年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

戦後数少ない不況と言われている中で、過去の高度成長期の時代から、やがてゼロ成長、マイナス成長へと辿ってきている現状を維持、成長していくために、我々企業としては、どのように我慢強く舵を取っていくのかという事が求められております。そのためには、通常の2倍、3倍の努力なくしては会社の向上は望めないということは言うまでもなく、どのような形で何を努力していくかが重要なポイントとなっております。今後、当社はその重要なポイントを踏まえ、常に最善の努力を怠ることなく、日夜新しい開拓を進めてまいります。

当社グループの平成21年3月期の事業成績は、上半期到北京オリンピック、地上デジタル化推進などの市場環境からの後押しを受け、計画を上回る業績となった反面、その後起こった米国発の経済破綻の強

い余波により、経営環境は急速に悪化いたしました。従来取り組んできた生産設備の効率化、合理化を急速に進めることに成功し、営業上では増収増益を維持することができました。

当社グループが属する企業環境においては、日夜変化のスピードが変動し、加速しております。それに対して、決して受身であることなく、常に先を見通し、自ら変化をリードしていく立場であるために、新たな取り組み、研究開発、設備投資など労を惜むことなく進めてまいります。

同時に、我々の子や孫の時代となる50年、100年先の徑に合わせじっくりと時間をかけて実りを待つべき事業も必要です。「共生・共産・共存」していくためには、人間が奢ってはなりません。危機と言われているエネルギー資源を一夜にして変えてしまうことは不可能ですが、ゆっくりと本来あるべき姿に戻していく覚悟で、大切な時を取り戻すための研究開発を怠ることなく、地球規模で成し遂げて「共生・共産・共存」を目指す企業でありたいと考えております。

株主、投資家の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **松本實藏**



top message

管理部長インタビュー

独自の生産技術開発力、一歩先行く生産体制を強みにこの厳しい経営環境を乗り越え、次の成長のための新たな事業化に積極的に取り組みます。



フジプレミアム取締役管理本部 小河 昌之 管理部長

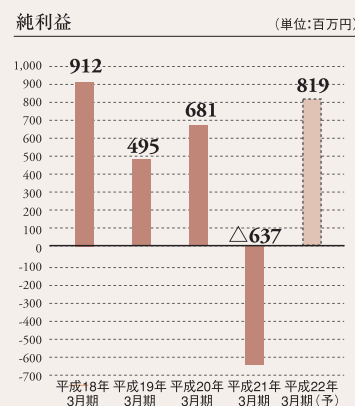
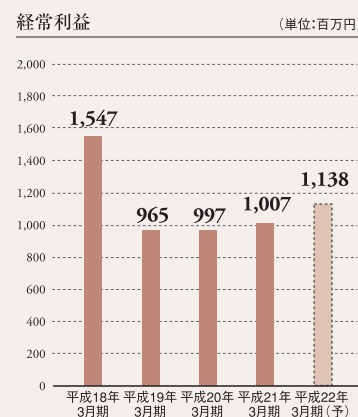
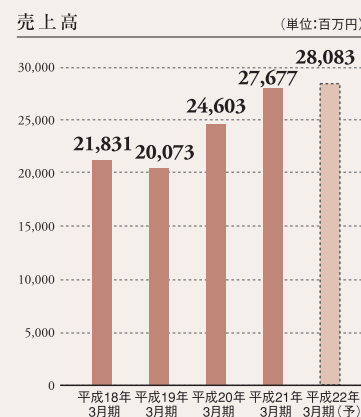
Q. 当期の連結決算の概況を教えてください。

事業環境の激変に、迅速に対処したことが、業績結果に表れたのだと思います。

当期の連結業績は、売上高276億77百万円（前期比12.5%増）、営業利益10億47百万円（同11.5%増）、経常利益10億7百万円（同1.0%増）となりました。第3四半期以降、生産数量の落ち込みがあったものの、第2四半期までの好調によって、売上高を伸ばすことができました。利益面も増収効果に加え、生産性の高い自社開発の新型設備の導入による製造経費の削減が寄与し、2ケタの営業増益を達成するこ

とことができました。秋以降、経営環境が急速に悪化しましたが、その転換のタイミングを見誤ることなく、次期以降を見越した対処を迅速に行ったことが、これらの結果につながったのではないかと思います。

一方、当期純損益は6億37百万円の損失（前期は6億81百万円の黒字）となりましたが、これは、経営基盤の強化を目的に、特別損失15億68百万円を計上したことによるものです。



Q. 当期はどのような施策に取組みましたか。

生産性の高い新型設備の導入、生産効率の向上と労務コストの削減等の構造改革を実行しました。

厳しい経営環境が当面続くものと考え、すぐさま事業構造改革へと舵をきり、翌期以降、生産数量が減少しても利益の出る収益構造にするための、いくつかのコスト削減策を実行しました。具体的には、自社の生産技術開発部門が開発した生産性の高い新型設備の導入により、生産効率の向上と労務コストの削減を図りました。また、その新型設備導入に伴って、

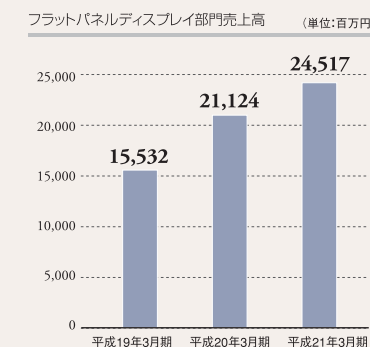
老朽化・陳腐化した生産設備を除却し、減価償却費を削減しました。更に評価基準の見直しにより製品・材料の棚卸資産を圧縮し、次期以降の売上原価の引下げを行いました。この他、生産数量の変化に応じて発生する労務面でのリスクを、タイムリーな人員調整や業務請負化の導入によって低減しました。

Q. セグメント別の概況を詳しく教えてください。

北京オリンピックや地上波のデジタル化推進効果で、PDP用光学フィルターが大幅に伸長しました。

フラットパネルディスプレイ部門の売上高は245億17百万円（前期比16.1%増）、営業利益13億2百万円（同35.7%増）となりました。北京オリンピックや地上波のデジタル化推進等の効果により受注が伸長し、PDP用光学フィルター製造の光都工場の売上高が前期の約120億円から173億円へと大幅に伸びました。また、フィルムフィルター関連を主に製造している姫路第3工場は堅調に推移し、前期と同水準の売上高を確保しました。その他の光学機能性フィルム関連を製造する姫路第1工場につきましては、液晶デバイス関連に関わるものが比較的多く、第3四半期以降のメーカーの在庫調整の影響を受けた格好となりました。また、上海工場は、主力工場である光都工場の稼働率を重視したために、一部生産調整を行いました。

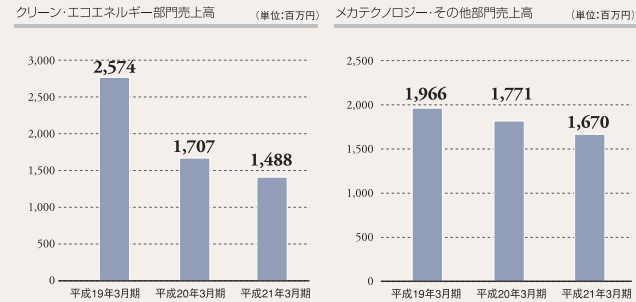
第3四半期以降、メーカーの在庫調整等の影響で受注は減少に転じましたが、新型貼合設備の生産効率を活かし、受注量に合わせた労務コストの削減、生産の合理化、生産方法の見直し等を進めた結果、営業利益も伸ばすことができました。



クリーン・エコエネルギー部門は、セル等の原材料の調達先拡大や、太陽電池モジュール工場の稼働率を上げるための取り組みを実施した他、国内、海外ともに販路拡大を積極的に行いました。しかし、太陽光発電市場を牽引するヨーロッパ市場が世界同時不況の波を大きく受けたこと、また、急激な円高、ユーロ安によって、市場が大きく混乱したこと等が響き、売上高は14億88百万円(前期比12.8%減)、営業損失2億92百万円となりました。製造部門であるソーラークリエイト事業部が、当初の生産計画に届かず、工場稼働率が下がったことで損失が発生しました。また、販売部門であるソーラー販売は、太陽電池モジュールの評価損を計上した結果、営業利益は130万円にとどまりました。

メカテクノロジー・その他部門は、物流関係事業及び商事事業とも、原油高や景気悪化の影響を受けながらも、当初の計画に近い業績を達成することができました。メカテック事業

部は、社内生産設備の改造や新型貼合設備の研究・設置等、当社の経営基盤強化のための技術的な取り組みを優先的に行いました。その結果、売上高16億70百万円(前期比5.7%減)、営業利益18百万円(同87.1%減)となりました。当セグメントの表面的な売上高、利益は低下しましたが、価格競争力の強化や収益率の改善に向けた、有益な施策が図れたものと考えております。



Q. 今後の事業環境をどのように見えていますか。

薄型テレビの買い替え需要の増加、太陽電池市場は国内外ともに拡大が見込まれます。

当社の主力事業であるフラットパネルディスプレイ部門は、海外市場、特に景気回復の最も早い中国で省エネ家電の消費浮揚策が拡大されたことや、国内市場では政府の景気対策のひとつである省エネ家電のエコポイント制導入、そして地上波のデジタル化の推進等により、薄型テレビの買い替え需要が喚起されるものと見えています。

またクリーン・エコエネルギー部門においても、アメリカの環

境投資策であるグリーン・ニューディール政策、そして国内市場では国や地方自治体のエコエネルギー向け補助金制度等が、海外、国内の太陽電池市場の拡大に貢献してくれるものと期待しています。しかしながら、ますますメーカーからの価格攻勢は厳しさを増し、環境ビジネスにおいても新たな企業参入により価格競争が激化し、損益的には厳しい状況が続くものと考えております。

Q. 次期の業績見通しと各事業の重点施策を教えてください。

前期並みの売上高となったとしても利益の出る体質への転換を図ります。

引き続き景気の先行きは不透明で、所得の減少や雇用不安等、当社を取巻く経営環境も予断を許さない状況で推移するものと思われませんが、今後も更に収益体質の強化を図ることで、売上高は280億83百万円(前期比1.5%増)、営業利益11億85百万円(同13.1%増)、経常利益11億38百万円(同13.0%増)、当期純利益8億19百万円を見込んでいます。フラットパネルディスプレイ部門の売上高の動向については、慎重に見ております。引き続き、コスト構造改革を推し進め、前期並みの売上高となったとしても、利益の出る体質への転換を図りたいと考えています。また、既存の取引先との更なる事業基盤の強化と協業事業への連携をとりながら、次の成長のための新たな事業化に積極的に取り組んでまいります。市場の拡大が期待できるクリーン・エコエネルギー部門は、販売部門の営業体制強化に重点をおき、国内、海外市場とも



様々なパートナーとの販路を拡大し、従来の得意分野であるニッチな市場の建材一体型モジュールの販路拡大、当社独自の付加価値の高い商品開発に取組みます。また製造部門においては、セルの調達先を更に広げ、セルの安定供給と仕入価格の抑制、自社技術による新発想の生産設備開発を行い、価格競争力を高めてまいります。

メカテクノロジー・その他部門は、引き続き社内設備への取り組みを優先的に行うことで、経営基盤のより強化を目的に活動してまいります。外販にも注力したいと考えています。

	平成21年3月期(実績)	平成22年3月期(計画)	伸び率(%)
売上高(百万円)	27,677	28,083	1.5
営業利益(百万円)	1,047	1,185	13.1
経常利益(百万円)	1,007	1,138	13.0
当期純利益(百万円)	△ 637	819	—
1株当たり当期純利益(円)	△ 22.09	28.69	—

Q. ステークホルダーの皆様へのメッセージをお願いします。

短期的な業績に左右されず、安定配当を維持します。

自社で培った独自の生産技術開発力を活かした生産設備を最大の強みに、他社に真似のできない一歩先を行く生産体制で、この厳しい経営環境を乗り切り、次の成長のための新たな事業化に積極的に取り組んでまいります。こうして企業価値を高めることで、ステークホルダーの皆様へ「共存共栄」の形で貢献し、事業活動を通じて環境問題をはじめ様々な社会的責任を果たしてまいります。

なお、当期の配当につきましては、特別損失の発生によって期間損益はマイナスとなりましたが、これは中長期的な視野に立った取組みであり、短期的な業績に左右されず安定した配当を維持していくという配当方針どおり、前期と同様、1株当たり年6円の配当を実施いたします。

今後ともご支援ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

フジプレアムの技術開発の土台となっているのが メカテック事業部です

フジプレアムでは創業当初から、自動包装機械を中心に、様々な産業用設備の製造販売を手掛けてきました。食品・化学・医薬品業界等幅広い業界に向けて、包装・梱包機械の設計から設置まで、一貫体制でトータルパッケージングシステムを提供しています。それは、現在、当社の技術開発の根幹をなす土台となっています。今号の「フジプレアムの技術情報」では、オートパッケージングシステムの一例をご紹介します。



フジプレアムのオートパッケージングシステムの実例紹介

■ ドッグフードのパッケージング工程 ■

当社が製造したパッケージングシステムで、ドッグフードが店頭に並ぶ状態に包装されました。お客様の難しい要望にもオーダーメイドで設計・開発を行っています。

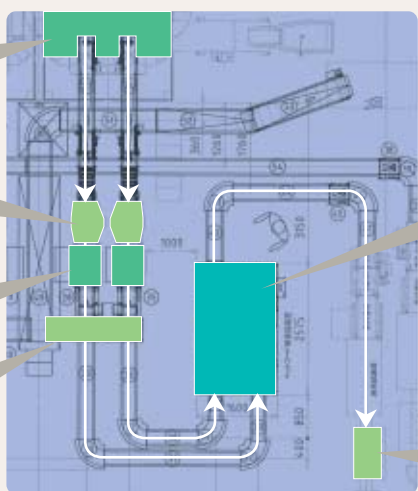


ビニールの小袋に包装されたドッグフードをライン上に流し、当工程がスタートします。

金属検出機で、金属等異物が混入していないかをチェックします。

チェックに引っかかったものを、自動でラインから排出します。

作業中の商品の流れを調整します。



小袋を規定数量集積し、大袋に挿入します。

袋詰めが終わった商品を、封止(シーリング)します。



産業機械システムから、 精密貼合技術への発展

昭和57年、当社は包装資材の販売を目的として設立しました。昭和58年に、菓子等の自動包装機械の開発・製造をスタート。そして、包装機械でフィルムを扱ってきたノウハウを生かし、平成3年、光学機能性フィルム加工に参入しました。その後、時代のニーズに応じて、平成9年、光学機能性フィルムとガラスを貼り合わせる独自の精密貼合技術へと進化、発展させてまいりました。



今日の当社の強みに つながっています

産業機械システムの開発、製造を進める中で蓄積した高度な技術力、ノウハウを活用し、生産性の高い新型貼合設備や新型太陽光発電モジュール製造ラインの開発等、技術的な取組みを迅速に進めることが可能となっています。それが、現在の当社グループ全体の競争力の向上や利益率の改善につながっています。



平成21年度の入社式を実施

【日時】平成21年3月24日(火) 9:00～
【場所】フジプレミアム本社4F 大会議室



今年度は、53名の新入社員が入社しました。3月24日(火)に実施された入社式では、松本社長から新入社員に向けて「初心忘るべからず」という言葉が贈られました。松本社長自身も、毎年、入社式のこの時期に自身の初心を思い出し、原点を見つめ直す作業をしているとのこと。経済環境が厳しいこの時期に入社できたということは、それだけ成長が期待できるということであり、フジプレミアムとしても、新入社員の期待に応えられるように企業発展、努力をしていきたいという想いを熱く語りました。

募金活動を活発化

グループ4社内で行ってきた毎月の募金活動を4月から更に活発化し、「ユニセフ」と「姫路こころの事業団」への寄付をスタートいたしました。全従業員の協力の結果、4月は合計で214,390円を寄付することが出来ました。

当社研究用農業ハウスで果実を収穫

新形態採光型太陽電池モジュールを活用した植物栽培研究も3年目に突入しました。当社の研究用農業ハウスでは、アップルマンゴーに加えて、新たにブラックベリー(正式名称:ポインベリー)の栽培も開始しました。このほど、立派な果実を収穫することができました。



執行役員制度導入に関するお知らせ

6月26日、執行役員制度を導入いたしました。当社グループを取り巻く事業環境が激しく変動する中、執行役員制度を導入することで、経営体制と業務執行体制を分離し、機動的かつ効率的な事業運営を行うことによって、企業価値の一層の向上とコーポレート・ガバナンスの強化を図ります。

平成21年3月期決算発表

5月15日(金)、平成21年3月期決算を発表しました。



証券会社、アナリスト向け決算説明会を開催しました

【日時】平成21年5月29日(金) 13:00～14:30
【会場】野村證券本社ビル6F(東京・日本橋)

証券会社、証券アナリストの方々にお集まりいただき、平成21年3月期の決算発表説明会を開催いたしました。

播磨探訪

「姫路城」を楽しむ

平成5年(1993年)に世界遺産として登録された姫路城は、平成21年の秋から改修工事に入ります。約5年間、姫路城は素屋根で覆われ、天守閣は姿を隠してしまいます。そこで今回の播磨探訪では、「世界遺産姫路城十景」(姫路市選定)の中から、お勧めのビューポイントをご紹介します。改修工事に入る前に、別名「白鷺城」とも呼ばれる美しい姫路城を一度、見学されてはいかがでしょうか。



大手前通り(JR姫路駅前)

天守閣から南に1.3kmの地点。全長約1km、幅約50mの大手前通りの南端に位置するJR姫路駅北口から天守閣が見通せます。姫路の玄関口にふさわしく、姫路城がお出迎えます。



姫路市立美術館

美術館の前庭、正面入り口辺りから、赤いレンガの建物越しにシャープな姿が望めます。



シロトピア記念公園(ふるさとの森)

シロトピア記念公園からは、ふるさとの森の原生林の上に天守閣が姿を見せています。また、世界的に有名な建築家、丹下健三氏が設計した兵庫県立歴史博物館の壁面のガラスに映るお城もお勧めです。



城見台公園

城見台公園は、天守閣から南東約500mの位置にある公園です。公園の噴水の前辺りからの景色は、まるで舞台の上の巨大セットのようです。

この
スポット
にも注目!

連結財務諸表

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 (平成21年3月31日現在)	前期 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	6,364,115	8,092,381
現金及び預金	2,686,103	2,981,285
受取手形及び売掛金	2,490,072	3,679,605
たな卸資産	981,235	1,291,628
その他	206,704	139,861
固定資産	6,118,142	7,277,195
有形固定資産	5,836,370	6,766,330
無形固定資産	4,324	4,978
投資その他の資産	277,447	505,886
繰延資産	93	186
資産合計	12,482,351	15,369,763

(単位：千円)

科目	当期 (平成21年3月31日現在)	前期 (平成20年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	5,235,037	6,224,580
支払手形及び買掛金	1,777,487	2,847,393
短期借入金	2,213,596	1,719,256
1年以内返済予定長期借入金	750,000	750,000
未払法人税等	5,813	262,885
賞与引当金	28,627	29,301
その他	459,513	615,743
固定負債	1,219,422	2,022,105
長期借入金	1,158,492	1,911,318
退職給付引当金	1,492	617
その他	59,437	110,170
負債合計	6,454,460	8,246,686
(純資産の部)		
株主資本	5,962,067	7,000,146
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	2,385,089	3,197,355
自己株式	△ 863,833	△ 638,019
評価・換算差額等	4,577	62,344
少数株主持分	61,246	60,585
純資産合計	6,027,891	7,123,076
負債・純資産合計	12,482,351	15,369,763

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	27,677,310	24,603,566
売上原価	25,364,737	22,390,642
販売費及び一般管理費	1,264,981	1,272,995
営業利益	1,047,591	939,928
営業外収益	34,893	123,718
営業外費用	74,624	65,787
経常利益	1,007,860	997,859
特別利益	400	120,000
特別損失	1,568,639	3,616
税金等調整前当期純損益	△ 560,378	1,114,243
法人税、住民税及び事業税	43,508	409,635
法人税等調整額	33,266	18,776
少数株主利益	661	4,021
当期純損益	△ 637,814	681,810

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	826,876	846,623
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 429,312	△ 147,404
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 695,293	△ 748,980
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,546	3,901
現金及び現金同等物の増減額	△ 295,182	△ 45,859
現金及び現金同等物の期首残高	2,931,285	2,977,145
現金及び現金同等物の期末残高	2,636,103	2,931,285

連結株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年3月31日残高	2,000,007	2,440,803	3,197,355	△ 638,019	7,000,146	△ 992	63,336	62,344	60,585	7,123,076
剰余金の配当	-	-	△ 174,450	-	△ 174,450	-	-	-	-	△ 174,450
当期純利益	-	-	△ 637,814	-	△ 637,814	-	-	-	-	△ 637,814
自己株式の取得	-	-	-	△ 225,813	△ 225,813	-	-	-	-	△ 225,813
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	1,386	△ 59,153	△ 57,766	661	△ 57,105
当期変動額合計	-	-	△ 812,265	△ 225,813	△ 1,038,079	1,386	△ 59,153	△ 57,766	661	△ 1,095,184
平成21年3月31日残高	2,000,007	2,440,803	2,385,089	△ 863,833	5,962,067	394	4,182	4,577	61,246	6,027,891

個別財務諸表

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 (平成21年3月31日現在)	前期 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	4,587,166	5,638,833
当座資産	3,853,517	4,692,534
たな卸資産	565,511	855,697
その他	168,137	90,601
固定資産	6,260,403	7,343,010
有形固定資産	5,658,519	6,522,521
無形固定資産	3,428	4,082
投資その他の資産	598,456	816,406
繰延資産	93	186
資産合計	10,847,663	12,982,030
(負債の部)		
流動負債	4,144,089	4,521,375
支払手形及び買掛金	1,150,560	1,633,356
短期借入金	1,900,000	1,400,000
その他	1,093,529	1,488,019
固定負債	1,127,602	1,875,000
長期借入金	1,125,000	1,875,000
その他	2,602	—
負債合計	5,271,692	6,396,375
(純資産の部)		
株主資本	5,575,576	6,586,647
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	1,998,598	2,783,856
自己株式	△ 863,833	△ 638,019
評価・換算差額等	394	△ 992
純資産合計	5,575,971	6,585,655
負債・純資産合計	10,847,663	12,982,030

損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	24,271,623	20,174,510
売上原価	22,392,851	18,587,373
販売費及び一般管理費	909,548	862,639
営業利益	969,223	724,498
営業外収益	35,350	114,985
営業外費用	63,832	53,217
経常利益	940,741	786,266
特別利益	—	120,000
特別損失	1,498,152	3,369
税引前当期純損益	△ 557,411	902,896
法人税、住民税及び事業税	15,618	345,467
法人税等調整額	37,776	11,108
当期純損益	△ 610,806	546,320

会社情報

会社概要 (平成21年3月31日現在)

商号	フジプレアム株式会社 Fujipream Corporation (英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本實藏
資本金	2,000百万円
事業内容	PDP用光学フィルタ関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 生産技術システム関連事業 他
従業員数	586名(連結・臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジプレアム ソーラー販売株式会社(設立 平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立 平成15年9月) フジプレアム商事株式会社(設立 平成18年6月) フジプレアム ロジスティクス株式会社(設立 平成15年10月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

取締役及び監査役 (平成21年6月26日現在)

代表取締役社長	松本實藏
取締役副社長	松本守雄
常務取締役	松本倫長
取締役	田頭未徳
取締役	小河昌之
監査役	藤田和也
監査役	片岡智彦
常勤監査役	松本毅(社外)
監査役	木村裕史(社外)

株式情報

株式の分布状況 (平成21年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 105,000,000株
発行済株式の総数 29,786,400株
株主数 4,828名

大株主の状況 (平成21年3月31日現在)

松本實藏	15,130,700株
松本庄蔵	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
フジプレアム株式会社	1,211,300株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	421,900株
松本倫長	408,300株
松本春代	360,000株

株式分布状況 (平成21年3月31日現在)

■所有者別株主数

